

保健分野における、新型コロナウイルス感染症や、三大感染症等に関する
国際機関への我が国からの戦略的・効果的な資金拠出と関与に資する研究（21BA1001）

研究代表者 蜂矢正彦 国立国際医療研究センター国際医療協力局連携協力部長

研究要旨

グローバルファンドや世界保健機関等の感染症関連の国際機関・団体に対する、我が国による効果的・戦略的な拠出と関与方法について現状分析と提案を行った。また、日本の製品や技術の国際展開を推進するうえで解決すべき課題について分析を行った。新型コロナ感染症の世界的流行を受け、関連する国際機関や民間に期待される役割は大きくなっている。関係機関が策定する新たな戦略や行動計画等に対しては、これらがより効果的に実施されるように、内容に関する議論や資金的支援、進捗の評価に我が国として積極的に加わるべきである。また、日本の製品や技術を国際展開していくうえでは、先を見据えた判断や戦略的な取り組み、効果的な支援が必要である。

研究分担者

駒田謙一：国立国際医療研究センター国際医療協力局運営企画部保健医療協力課医師

若林真美：国立国際医療研究センター国際医療協力局グローバルヘルス政策研究センター上級研究員

藤田則子：国立国際医療研究センター国際医療協力局運営企画部長

A. 研究目的

本研究では、日本が国際社会の一員として「持続可能な開発目標（SDGs）」達成に向けて貢献していくために、新型コロナウイルス感染症や三大感染症（エイズ、結核、マラリア）を含む感染症対策に焦点を当て、グローバルファンド（GF）や世界保健機関（WHO）等の国際機関・団体に対する、日本の戦略的・効果的な国際保健分野における関わり方について研究する。

具体的には、①GF や WHO 等の国際機関の戦略や活動内容について分析し、これらの機関のガバナンス会合等における日本政府の対応について

提言、②日本による感染症関連の国際機関・団体に対する効果的・戦略的な拠出と関与方法について現状分析と提案、③日本の製品や技術の国際展開を推進するうえで関与すべき国際機関の特定やその関与方法について提案、という 3 つの課題に対してそれぞれ分担研究班を形成して取り組む。

B. 研究方法

研究班全体として、各種情報収集と分析を進め、得られた知見から我が国の国際保健政策に還元すべきものがあれば、直ちに厚生労働省や外務省に対して提言を行う。

駒田分担班においては、GF が策定する次の長期戦略について、GF 理事会関連資料や文献等を通じ分析を行う。また、理事会を含む各種会合に参加し、関係者の発言等を通じて各ステークホルダーの動向を把握する。さらに WHO 等の関連する国際機関・団体の動向についても情報収集・分析を行う。

若林班においては、感染症関連の国際機関・団体に対する効果的・戦略的な拠出と関与方法の提

案を行うため、政府開発援助(ODA)をはじめとする援助資金の流れを定量化する。感染症関連で我が国が21世紀に入ってから国際機関・団体を通じてどのような援助形態(二国間援助・多国間援助・その他民間等)・経路組織・目的・地域および国へ援助資金を提供していたか情報収集し、データ分析により傾向を定量化する。同時に、他ドナー国(G7やG20の国等)の援助資金の流れや三大感染症や新型コロナウイルスの世界戦略の方針と比較する。さらに新型コロナウイルス感染症に伴う大局的变化を検証し、我が国および世界の国際保健政策に有用な提言に関する学術論文の準備を進める。

藤田班においては、新型コロナウイルスや三大感染症のワクチン・体外診断機器・治療薬等の保健医療製品に関して、研究開発、事前認証および各国承認、国際ドナー及び各国による選択、調達と供給、現場における導入・使用の各ステージにおける、国内外の主要ステークホルダーの関係性をマッピングし、相関図を作成し、役割・実績について分析を行う。

C. 研究結果

駒田分担班においては、第45回および第46回GF理事会や第150回WHO執行理事会に関して、これらの機関による三大感染症対策やその他の感染症対策の現状や課題を把握しつつ、日本から提言・発信すべき内容について、外務省・厚労省に提言した。新型コロナウイルス感染症の世界的な流行を受けて、三大感染症対策だけでなく、その他の感染症の世界的な流行への備えや対応も視野に入るなどGFの戦略は転換期を迎えており、変化の影響を受けやすいkey populationに十分配慮する必要がある。また、その他の感染症への対応や保健システム強化においてGFが果たすべき役割について検討が必要であり、その際はGFがその強みを活かして貢献することを優先するべきと考えられた。

若林分担班においては、新型コロナウイルス感染症に関する国際的な枠組みであるACTアクセラレータ(Access to COVID-19 Tools Accelerator)を中心とした国際的な新型コロナ対策への枠組みへの拠出金、及び感染症分野も含めた保健医療分野への日本からの多国間援助に関する拠出について検討した。米国やドイツに続き、日本は世界第3位のACTアクセラレータへの拠出国であり、新型コロナ対策への存在感を示していると考えられた。一方、2019年における保健分野における多国間援助に関する拠出は、日本の多国間援助に関する拠出の全体額を鑑みると比較的少なく、今後はポストコロナにおける健康危機管理体制強化に向けて国際保健分野への拠出金とその拠出額に見合った、効果的・戦略的な関わり方が重要になると考えられた。

藤田分担班においては、日本の製品や技術を国際展開するうえでの7つのステップ(現状分析から研究開発・認証登録・選定と優先付け・調達・流通・保健医療サービスまで)を分析フレームワークとして使用し、マラリア・結核・COVID-19関連製品に関して、現状や国際公共調達に成功した企業について、情報収集とボトルネック分析を行った。その結果、国際展開につながるためには、7つのどのステップにおいても常に先を見据えて、政府・国際機関、アカデミア(ARO)などの支援プログラムの活用、そのためにインフォーマルなネットワークやキーパーソンを通じた情報収集が重要であると考えられた。それを可能にするための介入策の一つは、結核の例にみられるように、国際機関のインナーサークルに適切な日本人人材を配置し、企業への情報共有と伴走支援を行えるような体制を作ることであり、そのためには海外市場を見据えた企業の経営判断も前提条件となると考えられた。

詳細については、各分担班の報告書を参照されたい。

D. 考察

新型コロナウイルス感染症の世界的流行を受けて、関連する国際機関の戦略や、我が国からの関係機関への拠出状況は大きく変わろうとしている。2022年5月24日に健康・医療戦略推進本部で決定された「グローバルヘルス戦略」では、「健康安全保障に資するグローバルヘルス・アーキテクチャーの構築に貢献し、パンデミックを含む公衆衛生危機に対するPPR（予防・備え・対応）を強化する」ことが政策目標の1つに掲げられている。GFやWHOなどの国際機関が策定する各種戦略や行動計画等に関しては、これらがより効果的に実施されるように、内容に関する議論や資金的支援、進捗の評価に我が国として積極的に加わるべきである。

また、新型コロナウイルス感染症や三大感染症への対応を含め、世界的な健康問題に取り組むうえでの民間企業の重要性が高まっている。我が国が、グローバルヘルス戦略を推進していく上でも、民間企業の活力に期待されるところが大きい一方、日本の製品や技術を国際展開していくうえで解決すべき課題は多く、先を見据えた判断や戦略的な取り組み、効果的な支援が必要である。

E. 結論

三大感染症対策も含め、国際的な感染症対策において関係する国際機関の果たすべき役割は拡大傾向にあり、そういった機関のガバナンスに関わる我が国の役割も重要性を増している。効果的な資金拠出を行いつつ、関係機関の理事会等で積極的に発信・提言していくべきである。また、民間企業に期待される部分も大きくなりつつある一方、日本の製品や技術を国際展開していくうえでは、戦略的な取り組みが必要であり、効果的な介入策について引き続き検討する必要がある。

F. 健康危険情報

該当なし

G. 研究発表

1. 論文発表

1) Mami Wakabayashi, Yasunori Ichimura, Eiichi Shimizu, Tomoko Nishioka, Yuzuru Kono, Masahiko Doi, Yuriko Egami, Tomoka Kadowaki, Hiroyasu Iso, Noriko Fujita, Global extension of Japanese medical products related to COVID-19: A survey of WHO Emergency Use Listing, GHM Open [Advance publication] Released February 26, 2022

2) 若林真美（執筆＝高橋麻奈）コロナ禍における医療の国際展開とCOVAXファシリティ,第66回GCI講演会報告,2021年12月21日開催,

https://www.kandagaigo.ac.jp/kuis/cms/wp-content/uploads/2022/02/gci_66_report.pdf

3) Mami Wakabayashi, Satoshi Ezoe, Makiko Yoneda, Yasushi Katsuma, Hiroyasu Iso, Global landscape of the COVID-19 vaccination policy: Ensuring equitable access to quality-assured vaccines, GHM Open, Article ID 2021.01029, [Advance publication] Released November 08, 2021

4) 若林 真美, 江副 聡, 米田 麻希子, 磯 博康, 新型コロナワクチンを公平に分配するための世界的取り組み, 公衆衛生, 85 巻 10 号, 697-701(2021)

5) 若林 真美, 江副 聡, 米田 麻希子, 磯 博康, 新型コロナワクチンの公平な供給: COVAX ファシリティの取り組み, 医学のあゆみ, 278 巻 3 号, 249-253(2021)

2. 学会発表

なし

H. 知的財産権の出願・登録状況

1. 特許取得

該当なし

2. 実用新案登録

該当なし